

# お目を拝借

## 平成26年度 秋の叙勲 瑞宝単光章 受章

東北支店の福島信明 工事長(56歳)が、11月3日付で発表された秋の叙勲で瑞宝単光章を受章した。今回の受章に対して福島工事長は、「この度の受章は永年にわたり向井会長、遠藤社長をはじめお客様、従業員、協力業者の皆様から頂いた御指導御鞭撻の賜であり心より感謝しています」と感慨深く喜びを表した。この叙勲は国家または社会に対する功労者を対象に、国が毎年春と秋に授与する栄典のひとつで、今年は11月13日に秋の叙勲伝達式が行われた。



百子夫人 福島工事長 太田国土交通大臣

### 36年以上にわたり鳶土工一筋

福島工事長は、昭和53年4月に向井建設株東北支店の林班にとび工として入社し、以来今日まで36年以上にわたり鳶土工一筋に従事している。入社後、創意工夫と卓抜な技能力をもって施工に取り組み、多岐にわたる現場を数多く手がけ、自ら鳶土工の技術・技能修得に懸命に精励した。技術・技能の向上に対する熱意が高く、絶えず自己研鑽に励み、昭和60年10月には職長、平成11年5月には工事長に就任し、同社の技術・技能面で優れた指導力を発揮している。建設産業に従事している現役の技能者の中で、第一線の現場作業に従事し、卓越した技能・技術を有している「ものづくりの名人」として、平成12年5月に優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)も受けている。

平成23年の東日本大震災時には、当日より仙台市立病院煙突倒壊に伴い、2次災害を防止するための緊急復旧工事を行うなど、元請からの要求に対し、人員・資材・燃料が窮乏する中、自ら現場に出向き、昼夜作業に対しても陣頭指揮を取り、施工に取り組み、安全施工に徹した対応に 得意先からの信頼は以前に増して、高く評価されている。

### 職長としての誇り

#### 「俺がこの現場をまとめて完成させる」

私が職長だったころは、どこの現場でもそうですが「俺がこの現場をまとめて完成させるのだ」という強い気持ちで、それぞれの現場を無事に終わらせた。どんな工事でも、手を抜かず、真剣に対応し、現場を終わらせたことが誇れること。立場は関係なく自分が預けられた現場は、「俺の現場だ!!」という意気込みで、現場をまとめて貫きたい。草野支店長の言葉を借りれば「誰がやる。俺がやる」の精神です。やはり、お客様から見ても違うと思うし、次の現場に繋げるためには大切な事だと思う。

### 教育・指導は「やらせて」アドバイス

職長・作業員の教育は、特別な事をしている訳ではないが、とにかく「やらせてみる」失敗した時は、怒るのではなく「こうした方が良かったね」とアドバイスをする程度。ただ怒ってもへこむだけで、その先に進まなくなってしまう。

職長には、何でもやる前に相談に乗り話を聞いて「このやり方だとこうなってしまうから、これの方が良くない。」とアドバイスする程度で、後は自分で考えさせるようにしている。こうしろ、ああしろと口うるさく言ってしまうと自分で物事を考えなくなって「指示待ち人間」になってしまう。何かをやろうとしても、私を変えてしまったら職長は「どうせまた変えられるのだから」と思い、何もやらなくなり物事を前向きに考えなくなってしまう。現場に顔を出しても、アドバイス程度で本人に考えさせて答えをださせる。但し、原価管理は忘れるなどいっている。

震災後は、特に原価管理が薄れている。ここ2年は、震災バブルで人さえ出していれば儲かる感がある。でも此のところ段々仕事量が減っているのも、やはりその辺は襟を正さないとこの先大変だと感じている。

### 工事長としての責任感

仕事には、当然波があり仕事が暇な時は「みんなを食わせていかなければならない、みんなには家族もいる」そういう思いがあるので、ただ単に「自分だけ食えればいい」という訳ではないですから、責任重大で大変です。私の従業員は18名。専属協力会社を含めると60名の面倒を看ている。

定年まではまだあるので、従業員、会社、家族、自分のためにも頑張ってください。後継者は、今の従業員の中から「やる気のある人に継承したい」と考えている。従業員から「工事長はいいな。やりたいな」と思ってもらえないとね。「工事長にはなりたくない!!」と言われないようにしないとね。仕事でも遊びでも何でもそうです。

### これからも建設業界のために

福島工事長は、今後について「これからも建設業界の発展、向井建設の発展のため、後進の教育・指導に力を入れ業務に邁進して参ります」と力強く抱負を語った。



遠藤社長 福島工事長